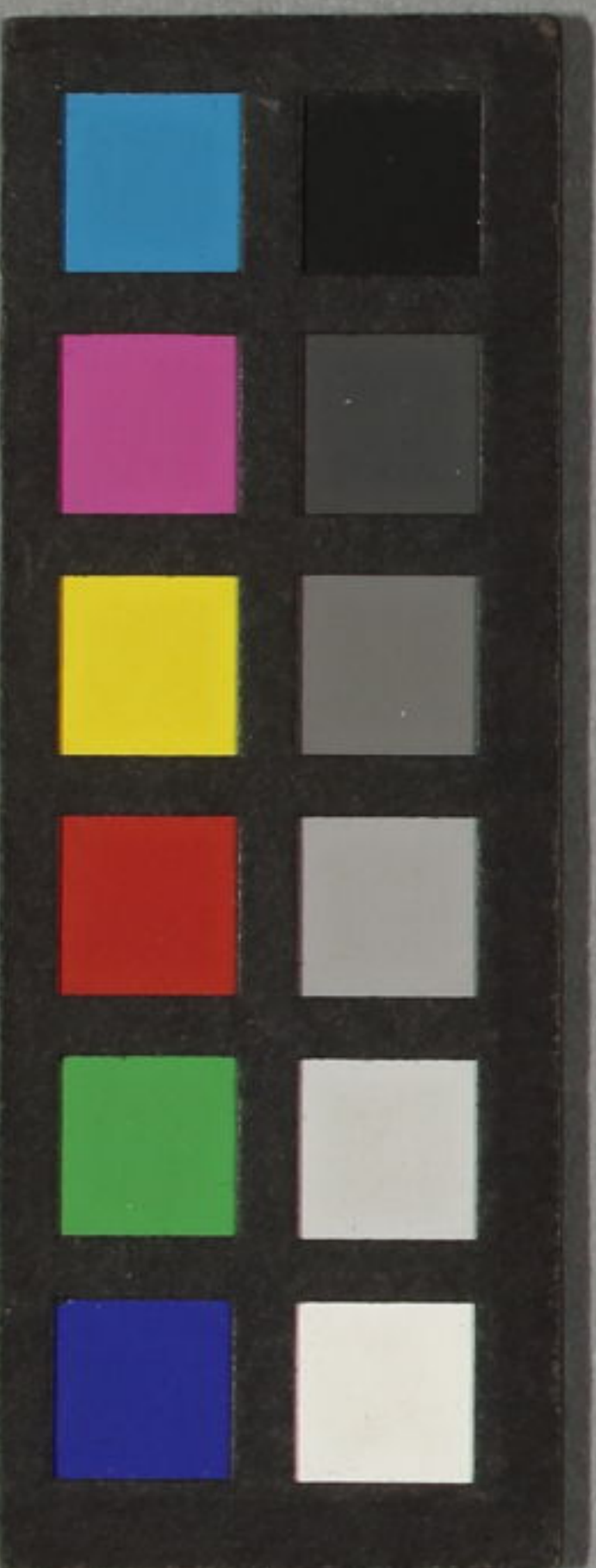


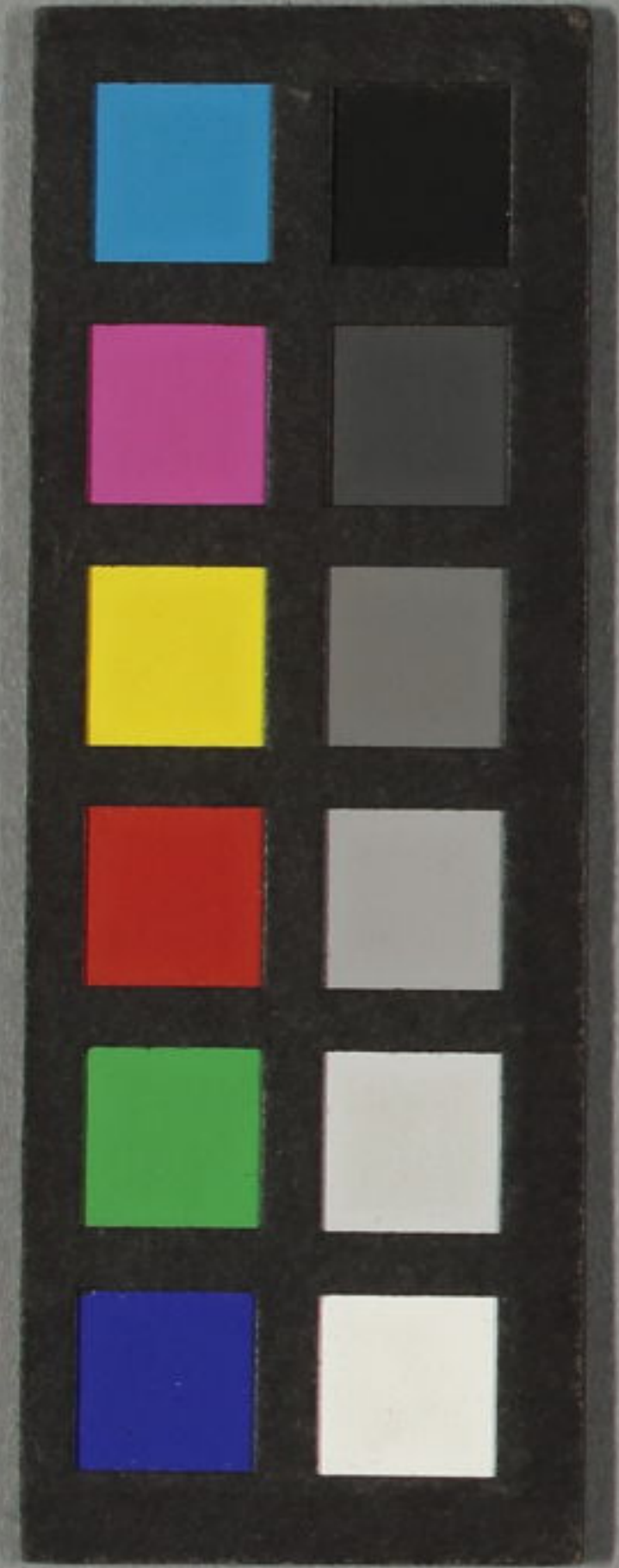


^13  
3824  
2



^13  
3824  
1





~ 13  
3824  
1



門へ13  
號 3824

露時雨駕籠之渡

全六冊

十返舎一九作

紹福迎慶

北尾重政画

前編

文政十一歳

江戸より町親仁橋角

戊子ノ初春

山本平吉板

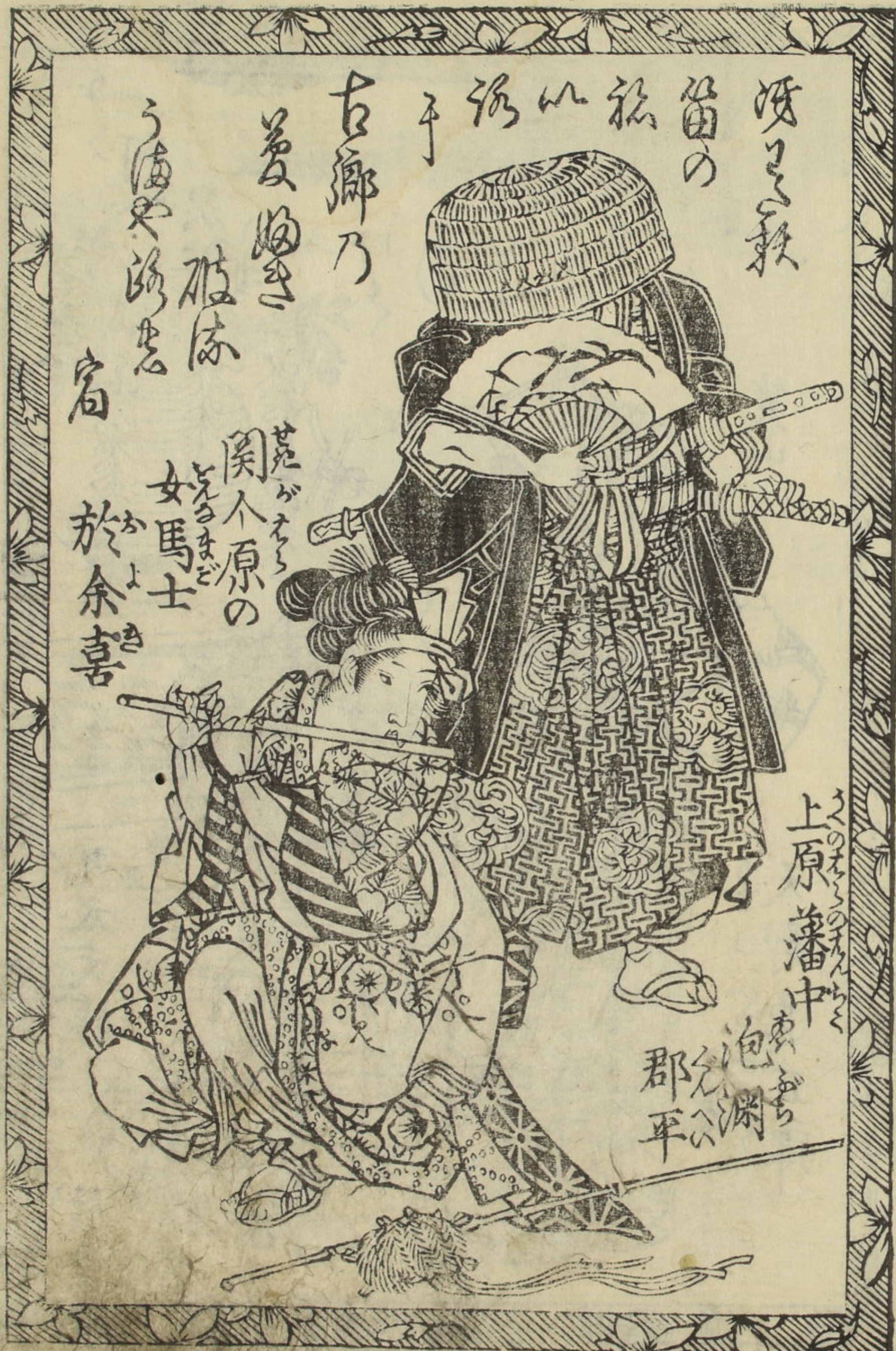
壹

俗説駕籠の渡一序

飛澤の國益田郡神守村の里々々我中家の中飛州の  
小なるは街道のり神通川の水上のく敷石のく崎の西なる  
藩細をりて一あれは本も曲接る此形のごまをばそ人を委せ  
をりてをりてをりてをりてをりてをりてをりてをりてをり  
家に廻ひて湯茶をまてをりてをりてをりてをりてをりてをり  
其旨趣玄妙のく近來流の合巻後身流のくをりてをりてをり  
辨るのりてをりてをりてをりてをりてをりてをりてをりて  
取らばのりてをりてをりてをりてをりてをりてをりてをり  
文政十戊子年新版

十返舎一九誌

ANDON



河之秋

笛の

松

以

新

子

古郷乃

菱畑

破衣

う海や路志

宿

関ヶ原の

女馬士

於余喜

上原藩中

泡淵  
郡平



小鍛冶宗近

護法神

倉稻魂

邑長

天野九夫



大載礼云婦有  
 七出不順父  
 母者每子者  
 淫辟者嫉  
 妒者惡  
 疾者  
 多口  
 舌者  
 竊盜者也  
 有三不去謂有  
 取受無所  
 婦者經其  
 三年之



九大夫  
 前妻  
 於佐賀

喪者先  
 貧賤而  
 後成富  
 貴者也



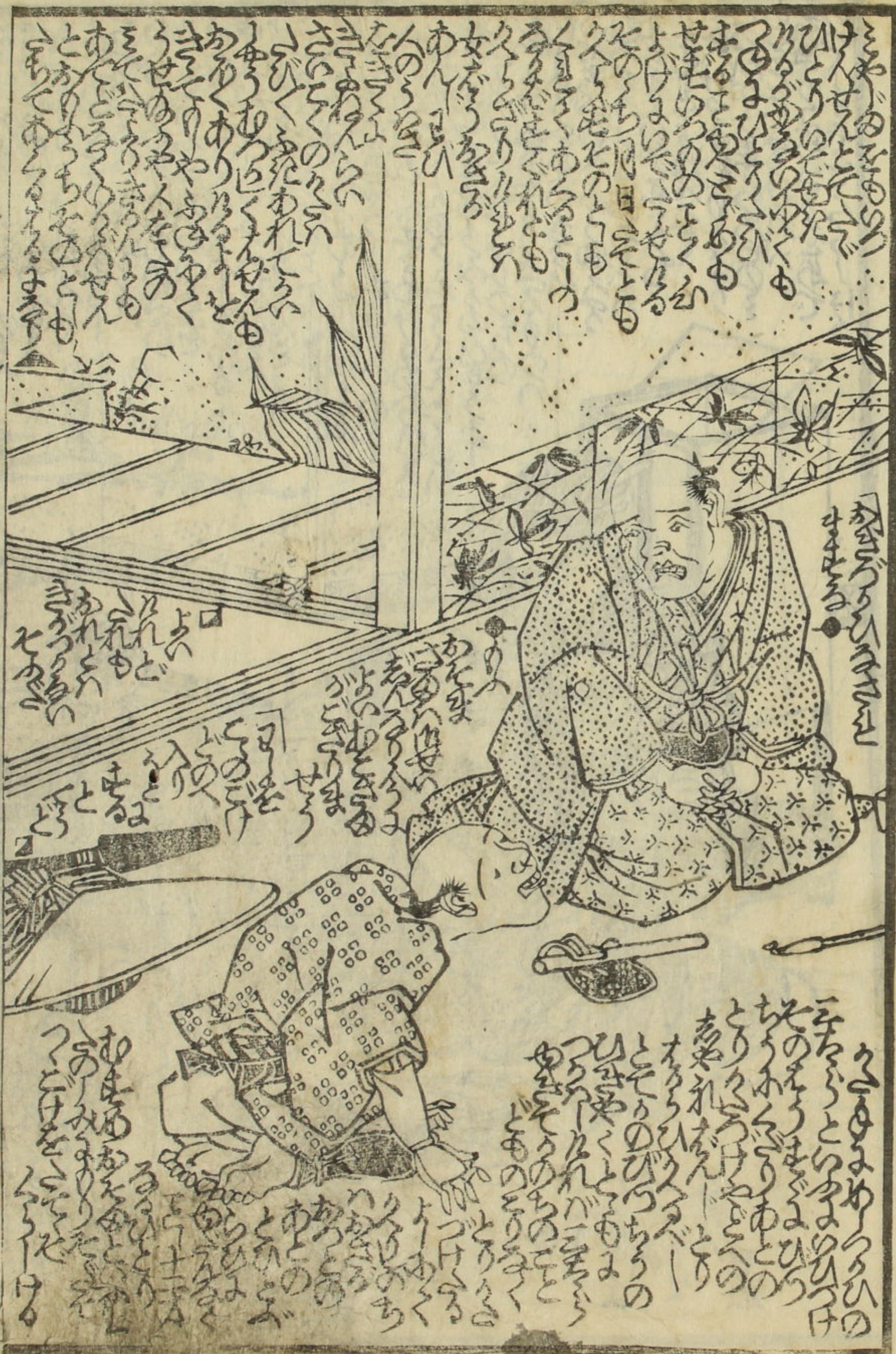
後妻  
 於多舞

中秋去月乃  
 此の月  
 丁我  
 せん相今所



せん相今所

四



とやうなものを  
ひきとせんとて  
つらひなものを  
つらひなものを  
つらひなものを  
つらひなものを  
つらひなものを  
つらひなものを  
つらひなものを  
つらひなものを

あたま  
あたま  
あたま  
あたま  
あたま  
あたま  
あたま  
あたま  
あたま  
あたま

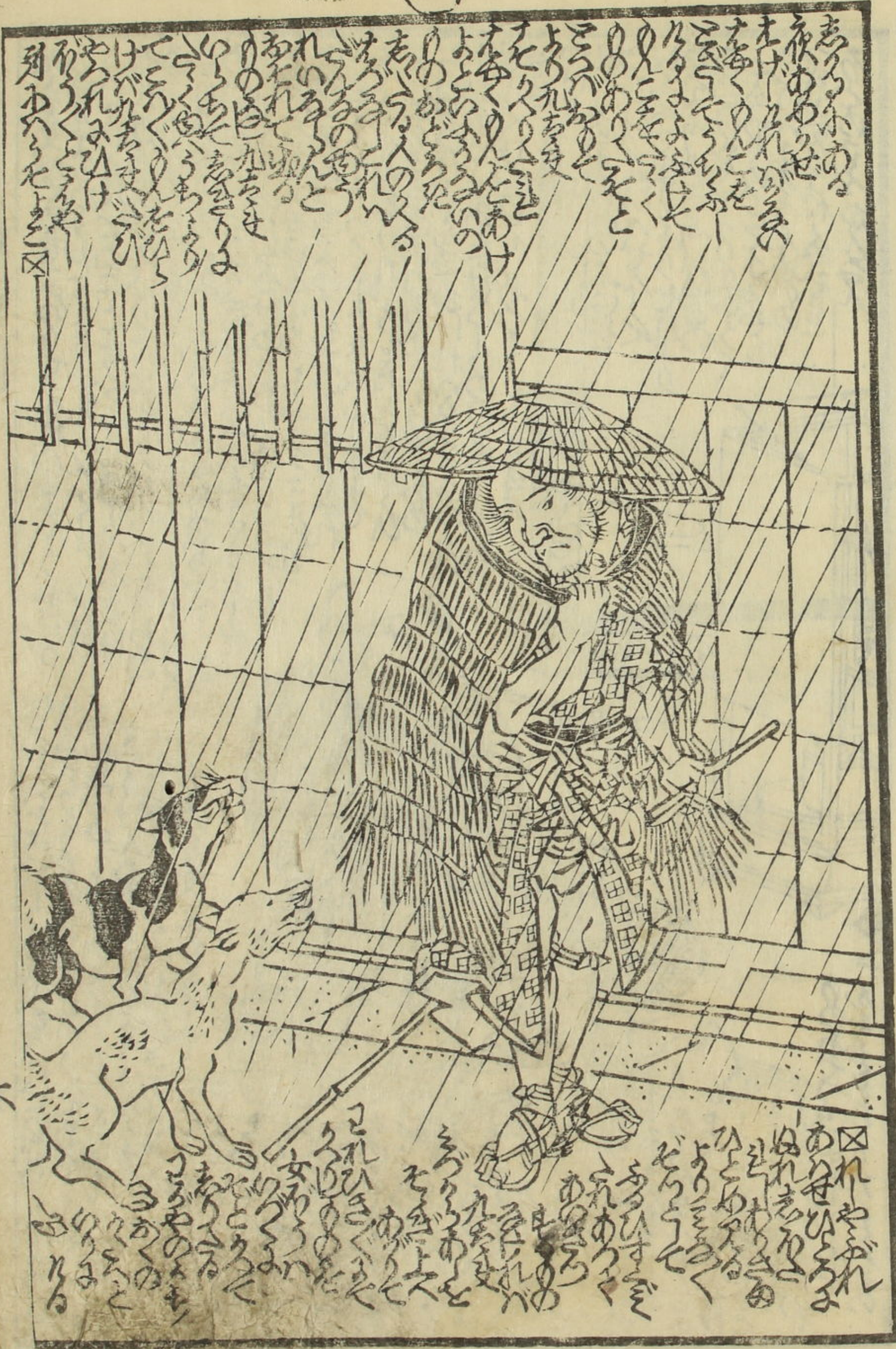
あたま  
あたま  
あたま  
あたま  
あたま  
あたま  
あたま  
あたま  
あたま  
あたま



あたま  
あたま  
あたま  
あたま  
あたま  
あたま  
あたま  
あたま  
あたま  
あたま

あたま  
あたま  
あたま  
あたま  
あたま  
あたま  
あたま  
あたま  
あたま  
あたま

あたま  
あたま  
あたま  
あたま  
あたま  
あたま  
あたま  
あたま  
あたま  
あたま



あつちのふか  
 夜のあつち  
 まけりぬれぬ  
 ながくゆきか  
 ろりゆきか  
 ぬりゆきか  
 こころゆきか  
 しのゆきか  
 よのゆきか  
 おのゆきか  
 うのゆきか  
 こころゆきか  
 しのゆきか  
 よのゆきか  
 おのゆきか  
 うのゆきか  
 こころゆきか  
 しのゆきか  
 よのゆきか  
 おのゆきか  
 うのゆきか

あつちのふか  
 夜のあつち  
 まけりぬれぬ  
 ながくゆきか  
 ろりゆきか  
 ぬりゆきか  
 こころゆきか  
 しのゆきか  
 よのゆきか  
 おのゆきか  
 うのゆきか  
 こころゆきか  
 しのゆきか  
 よのゆきか  
 おのゆきか  
 うのゆきか



あつちのふか  
 夜のあつち  
 まけりぬれぬ  
 ながくゆきか  
 ろりゆきか  
 ぬりゆきか  
 こころゆきか  
 しのゆきか  
 よのゆきか  
 おのゆきか  
 うのゆきか  
 こころゆきか  
 しのゆきか  
 よのゆきか  
 おのゆきか  
 うのゆきか  
 こころゆきか  
 しのゆきか  
 よのゆきか  
 おのゆきか  
 うのゆきか

あつちのふか  
 夜のあつち  
 まけりぬれぬ  
 ながくゆきか  
 ろりゆきか  
 ぬりゆきか  
 こころゆきか  
 しのゆきか  
 よのゆきか  
 おのゆきか  
 うのゆきか  
 こころゆきか  
 しのゆきか  
 よのゆきか  
 おのゆきか  
 うのゆきか





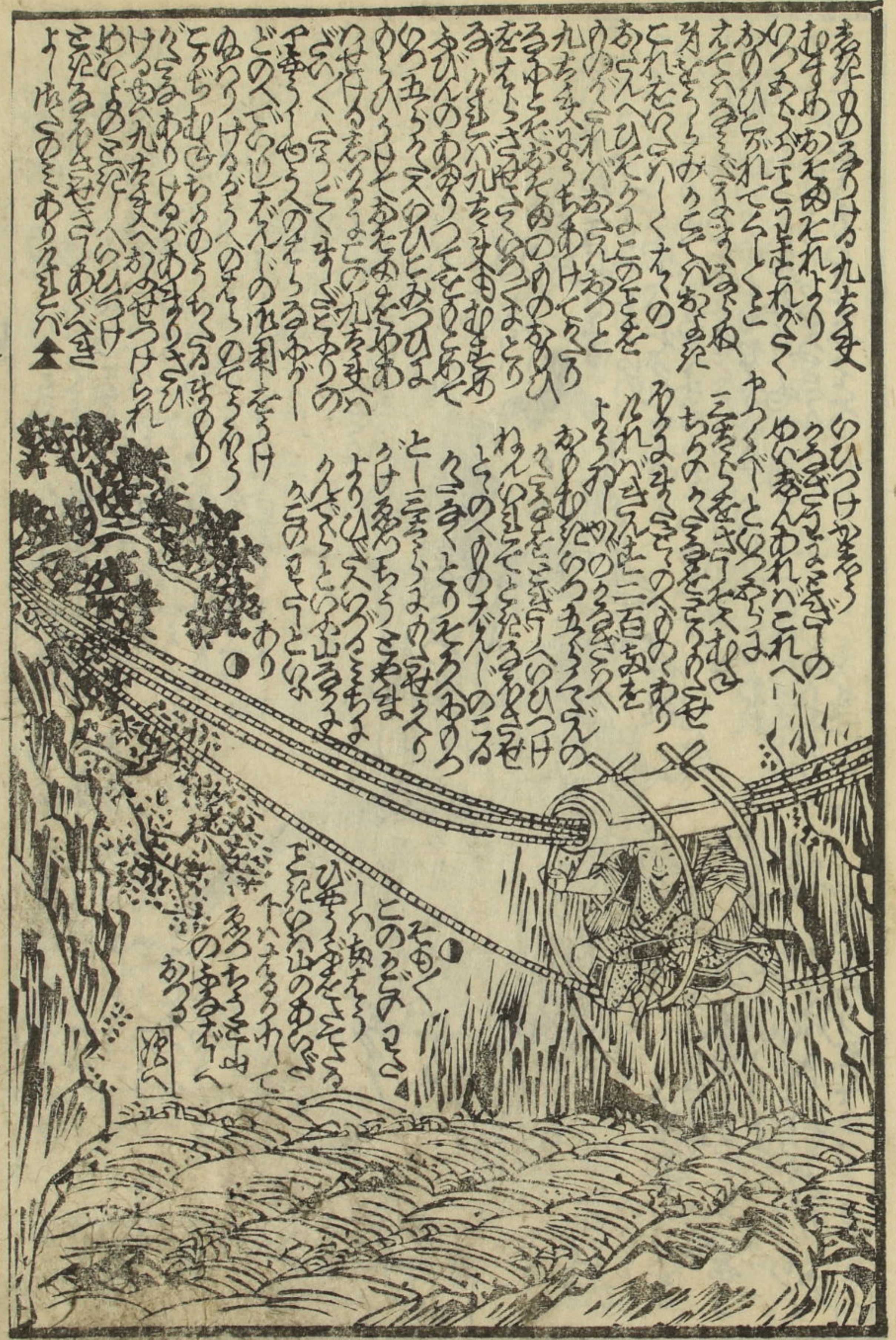






ついでに  
ささりの  
すうり  
しうり  
五郎  
いけ  
みも  
あちの  
るの

あちの  
おの  
ま



あちの  
おの  
ま  
あちの  
おの  
ま  
あちの  
おの  
ま  
あちの  
おの  
ま

あちの  
おの  
ま  
あちの  
おの  
ま  
あちの  
おの  
ま  
あちの  
おの  
ま

あちの  
おの  
ま  
あちの  
おの  
ま  
あちの  
おの  
ま  
あちの  
おの  
ま

あちの

あちの





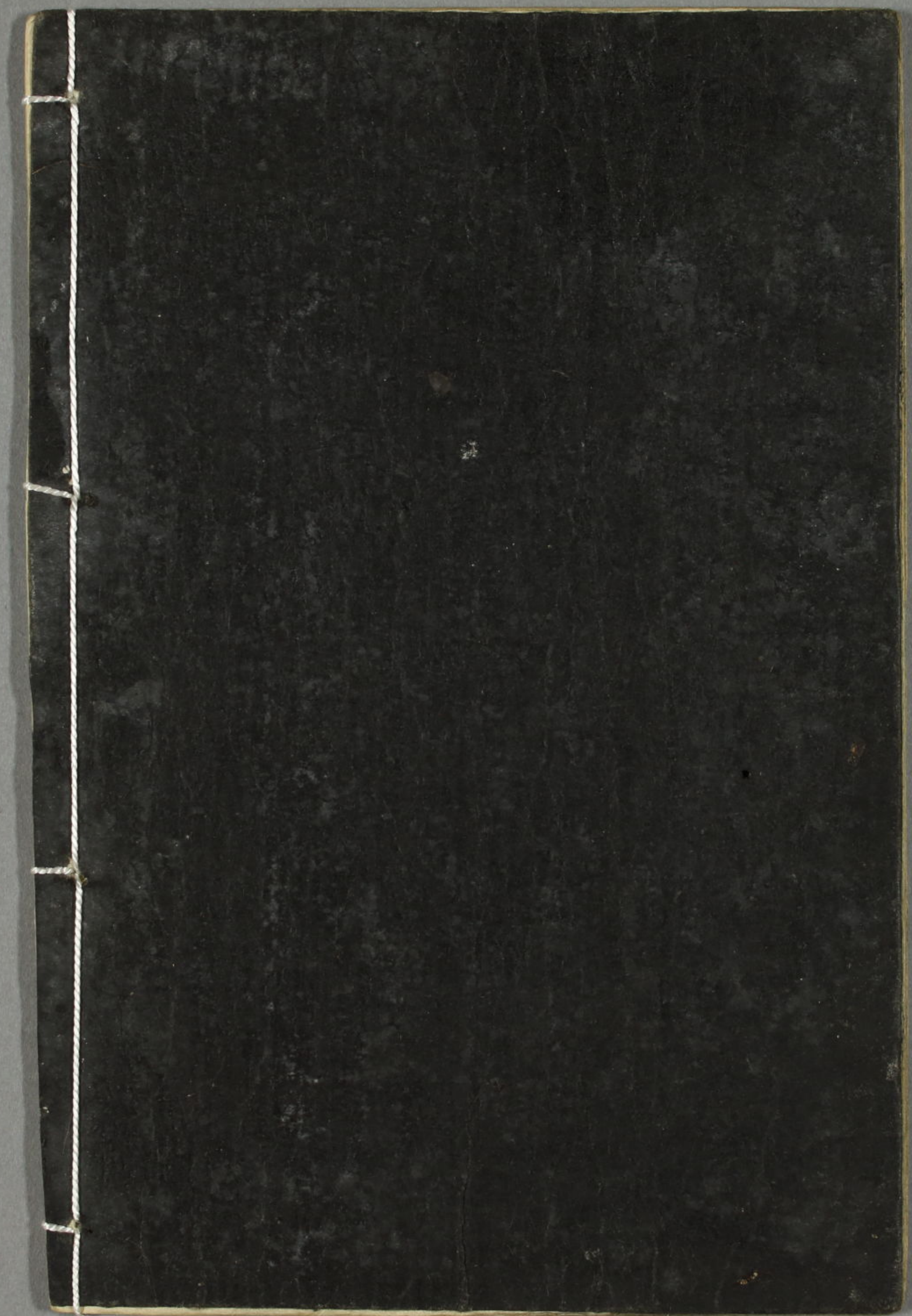














駕籠 渡乃

町親仁橋角  
山本平吉板

^13  
3824  
2





一九作  
重政画

後編

露時雨駕籠の渡

はゆ 去 ぐ 終 か び 目 ち

文政十一年  
戊子ノ初春梓

山本榮久堂版



二二

十一



二二

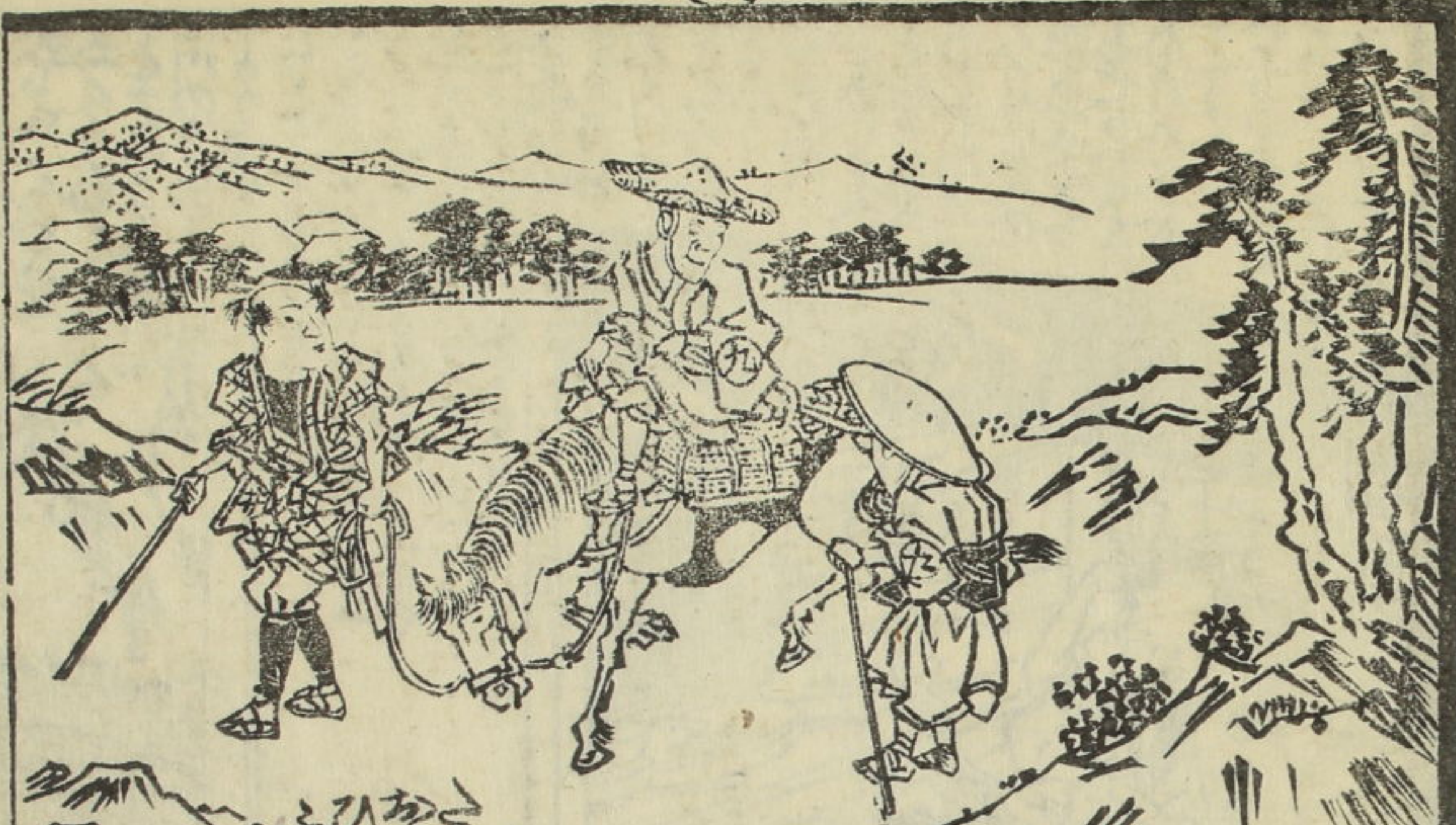
十一











四の巻の... (Vertical text columns describing the scene and characters, including details about the traveler and the child.)

五の巻

廿一

五の巻の... (Vertical text columns at the top of the right page, continuing the narrative.)



五の巻

廿一





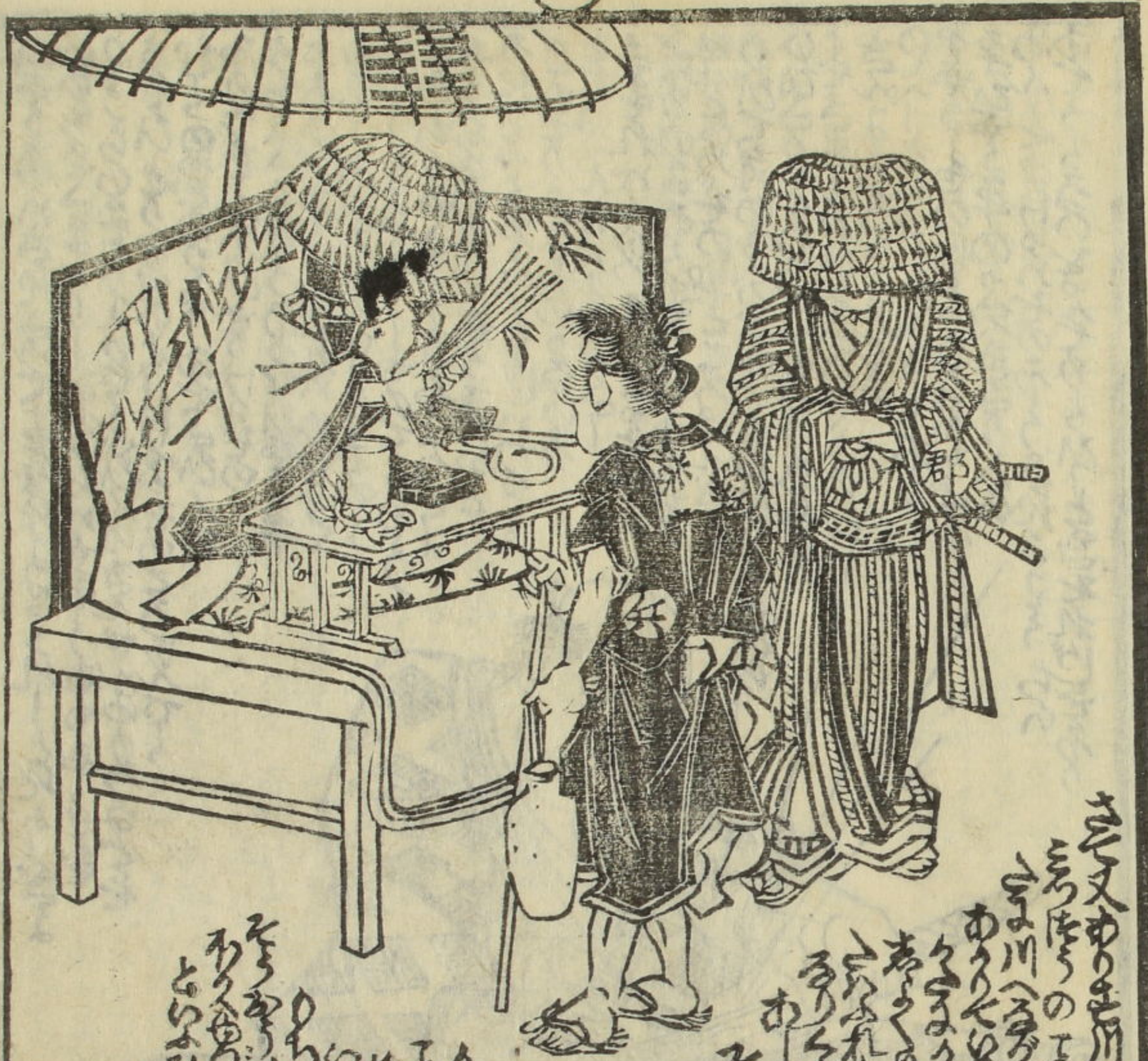
此の物語は、昔の事である。ある時、ある村に、  
 一人の女が、病に罹り、死にかけた。その時、  
 村の長老が、その女を救ふため、  
 山へ出て、神を祀り、祈りを捧げた。すると、  
 神は、その女の病を癒し、彼女を救った。  
 その女は、神に感謝し、村に帰った。



此の物語は、昔の事である。ある時、ある村に、  
 一人の女が、病に罹り、死にかけた。その時、  
 村の長老が、その女を救ふため、  
 山へ出て、神を祀り、祈りを捧げた。すると、  
 神は、その女の病を癒し、彼女を救った。  
 その女は、神に感謝し、村に帰った。







むふちの世川ひきつ平のてんらんかぶと  
 づらひのこわらさすしんかたてきりてはたせいのあざむき  
 せんかたてきりてはたせいのあざむき  
 やうくゆめちをたぬまのそれよりいそいで  
 くまらねれはまゆけんうりやうひらなや  
 あくくのゆくまきくわりのええん  
 へんれりあなをまきその女とひと  
 りるう一廿かきううらうはありのせ  
 かくのうひきかてひんかきう一廿ま  
 その女ゆめをさすまきまきまきま  
 こわらさすしんかたてきりてはたせいのあざむき  
 まきまきまきまきまきまきまきま  
 つたあせあせあしけいのうを  
 へんれりあなをまきその女とひと  
 りるう一廿かきううらうはありのせ  
 かくのうひきかてひんかきう一廿ま  
 おちてよどりてやうりあせあせあし  
 そやせまのまきまきまきまきまき  
 めんありのまきまきまきまきまき  
 といひまきまきまきまきまきまき  
 こわらさすしんかたてきりてはたせいのあざむき  
 まきまきまきまきまきまきまきま

あなう

か



おちてよどりてやうりあせあせあし  
 そやせまのまきまきまきまきまき  
 めんありのまきまきまきまきまき  
 といひまきまきまきまきまきまき  
 こわらさすしんかたてきりてはたせいのあざむき  
 まきまきまきまきまきまきまきま  
 へんれりあなをまきその女とひと  
 りるう一廿かきううらうはありのせ  
 かくのうひきかてひんかきう一廿ま  
 その女ゆめをさすまきまきまきま  
 こわらさすしんかたてきりてはたせいのあざむき  
 まきまきまきまきまきまきまきま  
 つたあせあせあしけいのうを  
 へんれりあなをまきその女とひと  
 りるう一廿かきううらうはありのせ  
 かくのうひきかてひんかきう一廿ま  
 おちてよどりてやうりあせあせあし  
 そやせまのまきまきまきまきまき  
 めんありのまきまきまきまきまき  
 といひまきまきまきまきまきまき  
 こわらさすしんかたてきりてはたせいのあざむき  
 まきまきまきまきまきまきまきま

まきまき  
 まきまき  
 まきまき  
 まきまき  
 まきまき  
 まきまき









今むらさき  
 かねひでん平へ  
 すとろつち  
 ぎんまの  
 こをそれ  
 ぐへちせ  
 あととま  
 りうし七  
 つりり  
 とろり  
 とれいあて  
 あり九す  
 の工あ人  
 あんたつ  
 かくハ  
 まいん  
 との  
 ちてあ人  
 あいふ  
 させ  
 のま  
 ぎんま  
 けとれ  
 るのろ  
 せん  
 けし



あらがら  
 季のむら  
 こへ  
 りい  
 けい  
 ひま  
 身  
 とろ  
 ひま  
 正  
 くと  
 づ  
 ゐ  
 ん  
 とろ  
 いせ  
 つろ  
 ぬ人





